

JA おきなわ女性部 宮城園子

離島農業の基本的な考えについて

離島地域の課題について、沖縄県は国境離島としての位置づけとして極めて重要で、離島の存在により我が国が国土のおよそ 12 倍にあたる管轄水域（領海と排他的経済水域をあわせた水域）を領有するに至っており、これからも離島に人が住み続けるために、基幹産業として農業を振興し島の魅力を発信していく必要があります。

日本の国土としての沖縄県全体が離島地域としての視点と、沖縄県の中での周辺離島との関係の視点がある。

《課題》

- ①離島における物資の供給及び農産物等の輸送は、船舶及び航空便に依拠せざるを得ず不利な状況にある。例えば、台風前後の高波による長期欠航による家畜飼料をはじめ必要な資材供給が寸断される他、貨物集中による航空貨物の輸送規制等により農畜産物を出荷できず廃棄せざるを得なくなる等、台風での被害発生に加え復旧が遅れる要因にもなっている。
- ②離島から沖縄本島、沖縄本島から本土への運送費が高くなっており、農業経営を圧迫している。また輸送トラックの確保も課題。
- ③離島において第一次産業（農業等）が衰退し人口が減少すると、管轄水域（領海や排他的経済水域をあわせた水域）が脅かせることにもつながりかねず、産業のみならず安全保障上（国境）にも支障をきたす恐れがある。

また、

沖縄県の基幹作物として「さとうきび」は、台風等の自然災害の多い地域において他に変えることのできない防災営農作物です。そのため、他の高収益作物への転換が容易ではありません。

《さとうきび農業生産の動向》

5 農業生産の動向

(1) さとうきび

さとうきびは、本県の基幹作物として県内ほぼ全域で栽培されており、平成 30 年の算出額は 161 億円で、農業算出額 16.3% を占めている。また、平成 30 年の収穫面積は 13,145ha、10a 当り収量は 5,649 kg、収穫量は 742,584 トンとなった。

参考資料：「沖縄の農林水産業」P.19 沖縄県農林水産部 令和 2 年 3 月発行